

第4回 幼保小合同研修会だより

日 時 : 令和7年9月17日(水) 午後3時～午後4時40分

場 所 : ニコニコこども館5階ふれあい学級(オンライン研修)

教育講演

「質の高い教育・保育」の実現と、
幼保小の架け橋プログラム

神長 美津子 氏



講師紹介 大阪総合保育大学 児童保育学部 特任教授

宇都宮大学教育学部附属幼稚園にて20年間勤務後、文部科学省や東京成徳大学、國學院大学において幼児教育の振興に御尽力され、「幼保小架け橋プログラム」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の策定、幼保小連携推進に関する政策立案などの中心的な役割を担ってられました。

今回は、オンライン研修(ZOOM)で幼保小接続期における教育・保育の在り方について学びました。

夢中になって遊ぶことが深い学びにつながる

先生はまず、子どもが夢中になって遊ぶ → 心が揺れ動く体験 → 主体的・対話的で深い学びへとつながっていくプロセスを示されました。遊びの中には「5領域」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が自然に含まれており、物的環境(遊具・教材など)と人的環境(保育者や仲間とのかかわり)によって支えられています。

子どもの「気付き」を大切に

「みんなでやりましょう」ではなく、「なんだろ?」「不思議だな」という子どもの気付きを見逃さないこと、そして「多様な学び」の機会のある環境を準備することの大切さを強調されました。

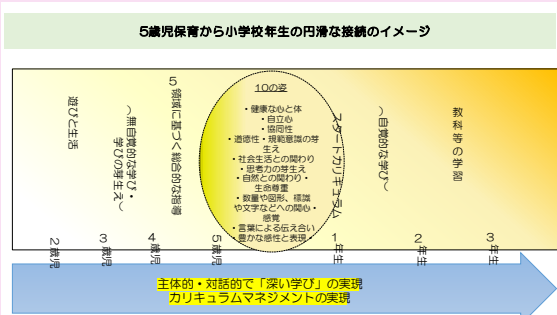
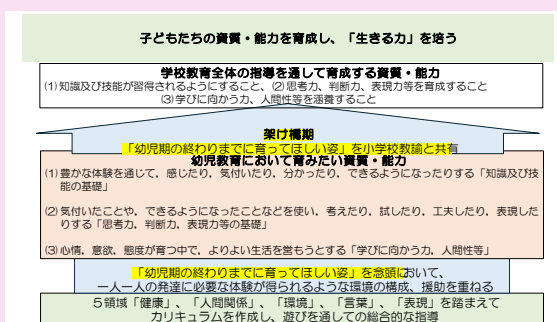
保育者は、子どもが試行錯誤する時間を保障し、失敗も含めた経験を見守りながら、探究心や言葉で伝え合う力を支えていくことが求められます。

1年生への授業のヒント

遊びや学びのプロセスを丁寧に捉えることが、1年生の授業を考えるヒントになるという視点は、幼児期と学齢期をつなぐ実践においてとても示唆的でした。幼児期の「無自覚な学び」と小学校の「自覚的な学び」をつなぎ、子どもの多様性に配慮しながら、学びや生活の基盤を育てていくことが、架け橋プログラムの目指すところです。

【まとめ】今回の講演を通して、改めて「遊びの中で育まれる資質・能力をどのように見取り、小学校教育へとつなげていくか」が大切であると実感しました。日々の保育や授業の中で、子どもたちの気付きやこだわりを丁寧に受けとめ、学びの芽を育てていく実践を積み重ねることができるよう「幼保小」で連携すべきだと感じました。

資料から



アンケートより

- ※興味や関心を活かした学びができるよう、自身の保育を見直す良い機会となった。子どもたちの興味関心を記録に残し質の高い保育を目指していきたい。
- ※遊びや学びの充実を図りながら、小学校へ円滑につなげていけるようにしたいと思った。小学校の先生方との交流、情報交換の機会をもちたいが、実現できないことも多く理想と現実の差を感じる。
- ※幼保小の連携が重要だということが改めて感じた。小学校教諭として【10の姿】を把握した上で指導に繋げていきたい。
- ※自分の保育を振り返り、今後の保育での目標や意識したいことを考えることができた。遊びの連続性を意識し、子どもたちの興味関心を逃さず、遊びから学びに繋がるような保育を進めていきたい。
- ※質の高い教育・保育には、子どもをしっかりと見取ることが大切だと再確認できた。幼稚園や保育園での子どもの育ちの姿やそこまでのストーリーを知ること、その後の関わり方や指導の方向性を模索することができるといった。